

## 保護犬の「もく」

三年 酒井菜桜

私は、幼稚園のときに犬を飼い始めました。千葉県保護施設に保護されていた雑種で、名前は「もく」です。私たちの家族はずっと犬を飼いたいと思っていて、話し合った結果、保護施設の犬を保護し、家族にすることを決めました。どの子を選ぶのか決めるとき、私と姉はなぜなのか、たくさんの犬の中から、もくを見たときに「この子にする！」と迷わず決めたそうです。あの時から、もくは私の家族に欠かせない存在になりました。本当に可愛くて、あの時、保護施設でもくを選んで家族になったことが奇跡のようで、本当によかったと思っています。

犬の保護施設には「収容期間」というものがあり、その期間のうちに家族が見つからなかった子は殺処分されてしまうと本で読みました。私たちの家族はもくを選んで来たけれど、もし、もくを選んでいなかったら、もくは殺されてしまったのかもしれない。あの時、もくと一緒にケージにいた子や隣のケージにいた子は、どうなっただろうと思いましたが、保護施設でもくを選んだときは、この決断で、どの子を救えるかということだとは思っていませんでした。しかし（たくさんの平等な命のなかに、救えた命と救えなかった命があったのだな…）

と少し申し訳ないように思います。保護施設にいる理由は様々です。野犬から生まれた子犬、迷子犬から飼い主のもとに戻れなくなってしまった犬。そして、飼育放棄や虐待。様々な理由があるけれど、なにも罪のない犬が殺されなくてはならない状況なのはおかしいと思います。犬は一人では生きていきません。犬を家族にするということは、最期を迎えるまで安心して過ごせるように、ずっと可愛がる責任をもつことだと思います。その責任を、犬を飼うときに、自分の中に重く受け止めるべきだと思います。

私ともくの散歩をしているときによく「なんとという犬種ですか？」と聞かれ、「雑種です。」と答えると「雑種なのにおとなしい！」や「雑種なのに毛がきれい。」と言われることがあります。保護犬、雑種には一匹一匹個性があります。大人しくない印象や汚い印象をもっている人もいるかもしれませんが。しかし、他の犬と変わることは一つありません。私のもっと多くの人に保護犬について知ってもらいたいのです。そして、飼いたいと思ったら責任をもって可愛がってほしいです。少しでも、そんな人が増えたら救われる命も少しずつ増えていきます。私ともくはずっと一緒にです。最期まで、絶対に守ります。